

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	安全計画小委員会	主 査 名：峯岸 良和 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：山田 哲弥
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>高度化・複雑化する都市・建築・人間の安全に関する、新たな課題の整理と、その解決策を探る。</p> <p>活動計画：</p> <p>2018 年度：① 安全性の見える化手法としての建築安全設計のメニューのひな形の作成と、メニュー作成に向けた他分野の取り組み等の分析。</p> <p>2019 年度：② ①の継続+建築主—設計者間の安全設計に関する「対話の誘導」・「水準の合意」を促すためのしかけづくりを議論</p> <p>③ 社会ニーズの変化・複雑な法改正・AI/IT 化の流れを踏まえ、2020 年以降における建築安全設計のあり方を議論</p> <p>④ ①~③をテーマとしたシンポジウムを開催。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 峯岸良和 (竹中工務店)：主査 ・ 桑名秀明 (鹿島建設)：幹事 ・ 水落秀木 (清水建設) ・ 北嶋秀明 (ETRA 環境技術研究所) ・ 古瀬 敏 (静岡文化芸術大学名誉教授) ・ 土屋伸一 (明野設備研究所) ・ 林 広明 (大成建設) ・ 村井裕樹 (日本福祉大学健康科学部) ・ 古川容子 (日本建築センター評定部) ・ 吉野攝津子 (大林組技術研究所) ・ 宮崎 淳 (日本設計) 	
設置 WG (WG 名：目的)		
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s6/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	2020/3/5 第 24 回安全計画シンポジウム「対話と合意に基づく建築・火災安全設計」 実施予定
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>2020年3月のシンポジウムに向けて、建築安全・火災安全設計における、法令の水準のみによらない「高い安全性」の実現のための方策として、建築主—設計者の対話や水準合意を促すしかけづくりについて議論を進めてきた。しかし、その期中における、京都アニメーションや首里城の火災、その前のアスクル火災を見返すと、安全確保＝法適合という思考一辺倒であったことが通底する要因と見出せた。これを踏まえ、今まで議論してきた対話や水準合意の意味合いを、「建築・社会の変化や、その建物固有の安全性を確保するための手段」という形で再定義するに至るなど、問題の本質により近づく議論が行えた。</p> <p>シンポジウムのパネラーを依頼した方々：火災・安全の問題に関与の多い意匠設計者、安全に関し様々取り組まれている建築主、構造の性能設計・水準合意に造詣の深い大学教授、にも委員会に数度参加頂き、経験と立場をもとにした、安全に関する対話と合意に関する可能性や課題について整理ができた。</p> <p>これらの議論の内容を3月にシンポジウムとして公開し、参加者からの意見をうけ次年度の課題と整理することで、活動計画が満了する予定である。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主査は続投2期目となるが、具体的な対話メニューの作成にむけ、委員の追加、特に、公募による募集を行う。 ・外部的な発信が2年間で期末のシンポジウムのみとなった。完全なオープンな企画ではなくても、期中に委員会外部の人との意見交換などを行う。 ・議論が長引きがちであった。効率的な議論を心がけたい。